

アスパラガスの立茎時管理について

R2.2 アグリ技研(株)

1. 立茎について (ウエルカム系)

◎立茎は夏芽を考慮して決定しましょう◎

項目	若年株 (1~2年)	多年生株
時期	収穫開始後 20~30 日前後	収穫開始後 40~45 日前後
立茎太さ	1.0~1.2 c m程 L クラス太茎	1.2~1.3 c m程の L クラス
収穫量目安	7~10kg/10a	7~10kg/10a
立茎数 (㎡)	15 本前後 (茎の太さで増減)	16~18 本前後 (茎の太さで増減)
立茎の間隔	なるべく間隔を取る	10 cm前後で揃える
立茎の品質	円形茎で樹勢強の茎	円形茎で 25 cm程まで同茎
水管理	通常の灌水処理	通常の灌水処理
ハウス温度	やや低温 (極力適温管理)	やや低温管理
確保揃期間	立茎後 30 日前後	立茎後 30 日前後

*全雄株は、特性に合った立茎作業を行う。

立茎作業は、夏芽の品質収量を大きく左右しますから開始時期などは遅く成らない様にしましょう、最近の夏場の天候は、猛暑傾向ですから夏秋芽の細茎傾向と茎葉の損傷も多くなって来ていますからやや太茎の選定と立茎後の茎葉の管理 (アバレ対策) は十分に取らしましょう。

2.お礼肥 (立茎前の施肥) 10a 当り

肥料名	施肥量	備考
鮮彩美人 643	5 袋	有機 100%、
珪リン酸	2 袋	P・K、ミネラル分の補充
豊作源	10 袋	活性炭・バチルス菌・カニガラ有機肥料
カルタマ Q	5~10 袋	カルシウム、石灰の補充 土壌分析後施肥量
腐植酸	3~5 袋	C E C・腐植の向上、土壌団粒構造改善
カウボン	3 袋	P、Ca のく溶性肥料

*立茎前には、春肥として改良材を主として施肥を行って新茎や新根の発育を促進する様にしましょう。

- ①立茎時の発根促進のために「アミクエ」5~10 k g を月 3 回の灌水処理
- ②節間の徒長防止に葉面散布「PK ゴー」2000 倍、灌水は 300 g 処理
- ③新根の促進とカルシウム補給に「カウボン」を 3 袋/10a 散布

3.防除（ポイントは立茎直後の予防散布で10日置きに抑制）

斑点・褐斑病、茎枯病・・・「立茎後60日の予防防除で決まります」
ダニ・アザミウマは、周辺の雑草や乾燥状況で対応
(ハウス周辺に赤ネットや反射マットも効果的)

4.水管理（夏場は水管理で増収・品質向上は決まる）

立茎前後は乾燥する為に、夕方にかけて十分に水分を与えて吸収根の活性を高め茎葉維持に努める。
立茎後の乾燥時には、少量多灌水で生産量を増す。
多雨時には灌水を控えて品質を良くする。
(梅雨時の排水対策も事前に行いましょう)

5. 茎葉整理（茎葉整理は大きく収量品質に影響）

摘芯作業を前進化させることで、夏芽の増収に大きく影響しますので、
目安としては、立茎後30日前後（二次側枝の未展開時）の晴天日に
110~120cm前後に鋏等で斜めに摘芯する。(PK ゴー2000倍処理)

（夏場は、茎葉の姿を縦長型に仕上げ採光を良くする）

ウエルカムは、下枝は地上部から60cm程、摘枝・葉は垂れて日陰になる枝や葉のみ先端や通路面の整理とする、余りに強めな整理は、逆に収量や品質低下の要因となります。

摘芯後に出来るだけ早く茎葉の整理を済ませ、出来れば5月中旬までに仕上ると同時にPK ゴー2000倍の葉面散布を行うことで茎葉も硬く静菌作用にも効果的とされています。